

# 蚕室造りの民家が残る塩尻地区 (下塩尻・上塩尻・秋和)

塩尻地区で江戸時代前期(1663)から始まった蚕種業は、1800年には蚕種業の本場であった奥州を抜いて日本一の製造地となり、幕末には横浜港から大量の蚕種がヨーロッパに向けて輸出された。蚕種業の盛んだった塩尻地区には今なお多くの蚕室造りの家が立ち並ぶ。

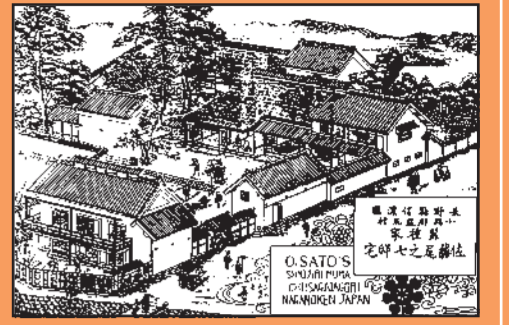


桑園跡の段々畑・ゆうすげと蝶の里

桑を育てるために山の傾斜地に石垣を築いて作った段々畑の跡。現在はゆうすげなど草花が植えられ、花盛りには貴重な蝶が飛来する。野鳥観察もできる。

## 明治時代の蚕種販売ポスターが現存する!

ポスターの中に NAGANOKEN SHIOJIRI MURA と英語で記してある! 当時の蚕都の繁栄ぶりが想像できる貴重な資料。



明治29年(1896)蚕種販売するために販売先へ出した宣伝ポスター。当時のままの形で残る。(個人所蔵)



**旧信越線北塩尻駅**  
蚕種製造家らの請願活動により大正9年(1920)5月開業。(現西上田駅)

**北国街道**  
信濃道分岐で中山道と分かれ、海野宿・上田・善光寺を経て北陸街道の直江津につなぐ街道。蚕種業の最盛期には蚕室造りの家が立ち並び、今もその面影を残している。

**小岩井織工**  
日本三大織の一つ上田紬の織元。江戸時代より蚕種製造を営み、昭和23年(1948)に織工を創業、上田の伝統工芸を今に伝える。

**虚空山東福寺**  
上塩尻村民の信仰のより所であり、子弟の教育の場であった。日本有数の蚕種製造地・塩尻を築いた多くの人々がここで教育を受けた。

**藤本蚕業歴史館**  
下塩尻を代表した蚕種製造家・藤本(佐藤)家に残る貴重な資料を展示・保存した歴史館。

**塩尻小学校郷土資料館**  
養蚕・蚕種業に関する貴重な資料が展示され、児童の地域学習などに利用されている。

**座摩神社**  
農耕・食物・養蚕の神である保食神を祀る。八十八夜に行われる例祭に養蚕の全盛期には、上塩尻だけでなく東北信地方で養蚕を営む人々が豊春祈願に訪れた。

蚕室造りの民家(平成14年8月~9月に現地調査) 地図上のアルファベットと番号は、平成14年(2002)に調査した蚕室造りの民家で、たくさんの方が当時の蚕産業に携わっていた事が分かる。



**倉沢家**  
全国に名の知れた著名な蚕種家、倉沢運平。湯川の伏流水で蚕種を冷やした冷室やオンドル型の3階建て蚕室が残存。

**上田電鉄 別所温泉駅**  
大正10年(1921)開業(当時は上田温泉電軌)。大正ロマン漂う駅舎が観光客を迎える。

**しなの鉄道 大屋駅**  
地元だけでなく伊那や諏訪地方の蚕糸業関係者が中心となり、明治29年(1896)請願により停車場として開業。

**郷蔵**  
郷蔵の2階に保管されていた大量の古文書のなかには、幕末維新期の歴史を新たに書き直すことにつながる貴重な資料も発見された。

**飯沼区古文書保管庫**  
郷蔵で発見された1万点もの古文書を整理・研究するために飯沼区が建てた保管庫。

**長瀬村の和紙製造**  
長瀬村は蚕卵原紙に用いる和紙の製造枚数で日本一となった。

**手塚集落**  
かつて養蚕業が盛んだった塩尻地区には今も蚕室造りの家があちこちに見られる。

**氷沢の風穴**  
蚕種家倉沢運平によって開発された小県三大風穴の一つ。

**丸子郷土博物館**  
モダンな造りの建物は、器械製糸業が盛んな昭和3年(1928)に落成した旧丸子町役場庁舎をモチーフとしている。

**依水館**  
大正7年(1917)丸子の製糸業全盛の時期に依田社が建てた迎賓館施設。(国指定登録有形文化財、市指定有形文化財)

**丸子鉄道丸子線 丸子駅**  
器械製糸業で繁栄した丸子を支え、地域の動脈として活躍した丸子線の丸子駅。

**カネタの煙突**  
丸子の製糸業の繁栄と衰退を見つめた製糸工場カネタの煙突の名残。

**依田社生糸の商標**  
丸子で紡がれた生糸は、その品質の高さからアメリカへ輸出された。生糸に貼られた商標。



**シナノケンシ株式会社 絹糸紡績資料館**  
大正7年(1918)創業。製糸工場で生糸にならない出殻などの副産物を利用して糸を作る絹糸紡績業を営む。平成10年、日本で最後まで操業した絹糸紡績工場としてその歴史を伝える資料館を開館。

**カネワ製糸場**  
アメリカからの訪問団が視察した組合製糸依田社の有力企業。(現山印醸造(株)丸子工場)

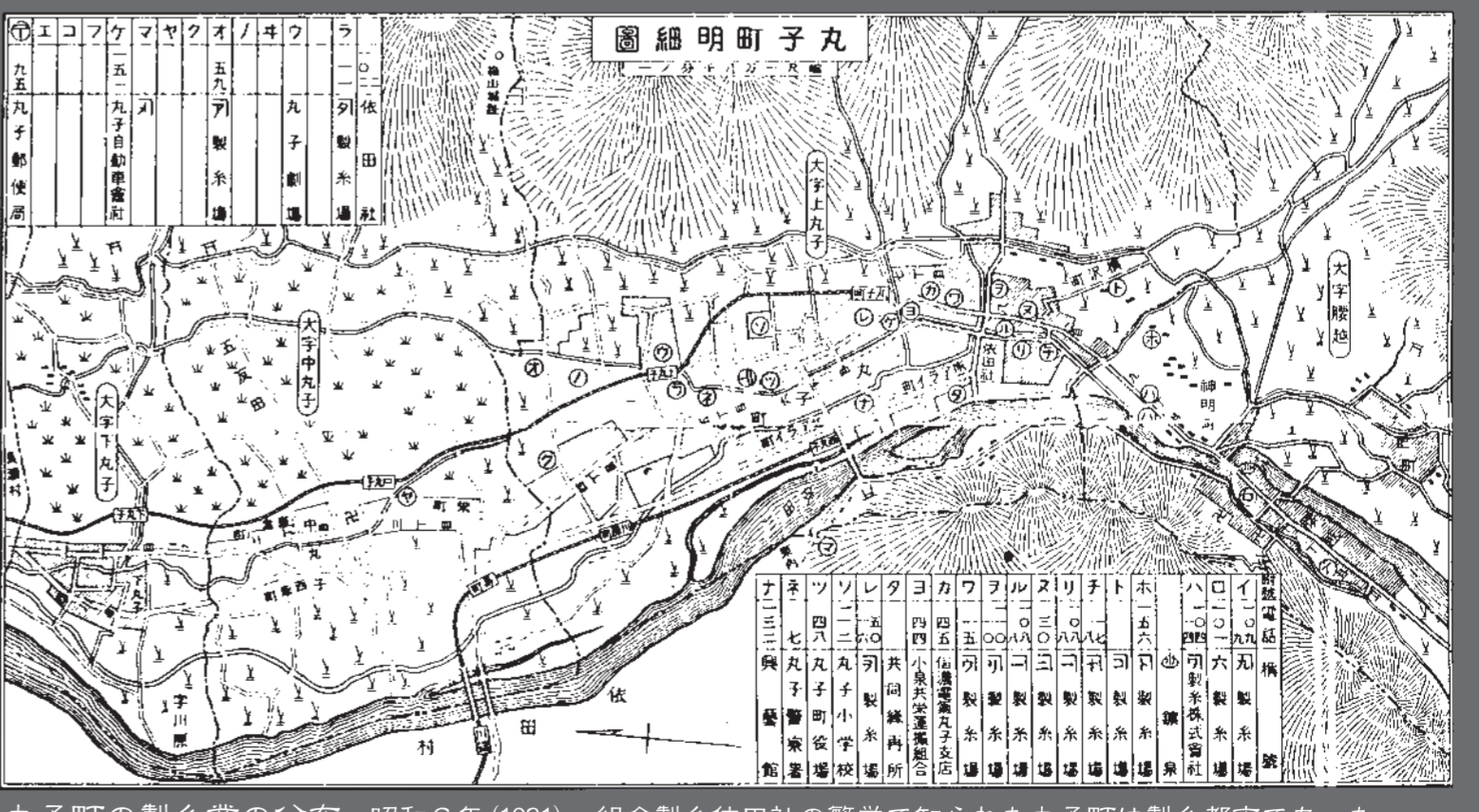
# 蚕都上田

## (明治~昭和) 上小地域

小県郡は、蚕都上田を支える背後地域であった。江戸時代、蚕種業で全国的に有名だった塩尻地区は、幕末、微粒子病に冒された西洋諸国にいち早く蚕種輸出を計り、多くの富を集積させた。その影響を受け、千曲川沿岸では養蚕とともに蚕種製造業が発達した。規模拡大した蚕種家は別所の倉沢運平のように蚕種を風穴に保存して、夏蚕、夏秋蚕に備えた。繭を煮て生糸を作る製糸業は、同じく製糸業が盛んであった諏訪・岡谷地方と和峠でつながる丸子で発達した。下村合名会社を中心とした組合製糸依田社を擁する丸子町は岡谷、須坂と並ぶ製糸都市に成長した。20数社からなる依田社、なかでもカネワ製糸、カネタ製糸が有力な製糸工場であった。糸都丸子の面影は依田社の迎賓館「依水館」、カネタの煙突、シナノケンシの「絹糸紡績博物館」等に見ることができる。



**工業百年記念公園**  
器械製糸業の町丸子の繁栄の礎を築いた下村亀三郎ら6名を称えた記念碑が建立されている。



丸子町の製糸業の分布 昭和6年(1931) 組合製糸依田社の繁栄で知られた丸子町は製糸都市であった。

基図 「小県郡及上田市地図」 昭和5年発行 信濃教育会小県上田部会。  
資料 「大日本蚕業歴史画」(上田市立博物館)  
「依田社生糸商標」(丸子郷土博物館)  
「佐藤尾之七郎宅」(佐藤一助氏)  
「上田市街図(丸子町明細図)」(上田市立博物館)  
「上田市誌」15巻16巻28巻、上田市誌編集委員会編(上田市)  
「上田歴史地図」尾崎行也・佐々木清司編(郷土出版社、昭和58年5月9日)  
「蚕都上田ものがたり-蚕種業を中心として-」(上田小県近代史研究会編集・発行、平成20年11月15日)  
「しおじり」塩尻地区近代化遺産活用ガイドブック編集委員会編(上田市教育委員会、平成15年3月1日)  
「蚕室造りの民家」竹内秀夫作成(平成15年3月)  
\*その他画像は全て蚕都上田プロジェクト

